

【畜産クラスター事業について(農林水産省資料)】

～施設整備事業のポイントについて新解説資料～

日本養豚協会 (JPPA) では、令和7年度に向けた養豚政策に関する提案 (要請) を行っています。

養豚農家戸数が引き続き減少を続ける中、中小農家を含め、生産性向上や付加価値向上による経営改善に取り組む生産者への支援を新たに強化することが重要と考えています。

農林水産省は、地域の関係事業者が連携・結集し、地域ぐるみで高収益型の畜産を実現するため、「畜産クラスター事業」を推進しています。

同事業については、「規模拡大要件が厳しく事業に参加しにくい」、「衛生対策に有効なグループシステムを導入したいが、畜産クラスター事業の要件に合わないのではないか」、「クラスター計画の作成が難しい」などのご意見を会員の皆さんから伺っています。

このような現状について JPPA からの提案を受け、農林水産省ではクラスター事業における「地域の平均規模」の考え方など施設整備事業のポイントについて、都道府県や団体に向け新しい解説を示しました。

また、「畜産クラスター事業の誤解」の資料では、グループシステムの導入等を例に、

- 畜産クラスターは「規模拡大」が必須とされている方が多いようですが、実際には、「地域の平均規模」以上にすればOKです
- この平均規模は「家族経営だけの平均」など、柔軟に計算できます
- 「地域の平均規模」をすでに超えている場合は、生産効率を改善して収益性が向上できれば支援対象となる

といった解説を示しました。

畜産クラスター事業の実施をお考えの皆様は、まずは、農林水産省や都道府県畜産部局等へ相談してください。

【コラム】畜産クラスター事業の誤解



ポークマン

地元の生産者が一貫経営からマルチサイトシステムに転換したいと言っているけど、どうしたらいいのかな。

畜産クラスター事業が使えます。生産コストの低減、生産性の向上のために豚舎を整備している例がありますよ。



クラスターマスター



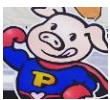
ポークマン

おお！噂の畜産クラスター事業ね！最近では、伝染病の被害も大きくなっているから、「マルチサイトシステム」を導入して、肥育・繁殖の分業化を進めている生産者も多くなってきたんだ。

ほ～。マルチサイトシステムを導入することは何がいいんですか。



クラスターマスター



ポークマン

交差汚染の防止とオールイン・オールアウトをできることが一番のメリットなんだ。豚舎を空にして消毒できるから、病気のリスクが減らせる。飼料コストが高い今だからこそ、事故を減らすことは大切だよ。特にPRRS（豚繁殖・呼吸障害症候群）で事故が多い農場では、オールイン・オールアウトの導入で事故率が大きく下がったって言うよ。

でも、複数の異なる場所(サイト)に分散して飼うのは、中小の生産者にはハードルが高くないですか。



クラスターマスター



ポークマン

それには「グループシステム」という方法があるんだ。これは、数週間分の豚をグループにして飼う方法で、こちらでも衛生対策を徹底できる。でも、豚舎が追加で要るけど頭数が増えるわけではないから、畜産クラスター事業の「規模拡大」要件をクリアできないんだ…



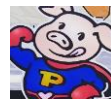
ポークマン

なるほど！自分に合う「平均規模以上にす
る計画」を立てればいいんだね！

そのとおり。
さらに「地域の平均規模」をすでに超えている場合は、生産効率を改善して収益性が向上できれば支援対象となるよ。
これを知って、工夫をすれば、畜産クラスター事業を活用できる生産者は多いと思います！



クラスターマスター



ポークマン

そうなんだ！
グループシステムにすれば生存率も上がるから、それで収益が上がると見込めるね。先入観で諦めていたよ。柔軟に運用しているんだ！
まずは、とにかく相談することが大事、ということだね



クラスターマスター

畜産クラスター事業の相談は以下へ

- 農林水産省畜産局企画課 叶、竹本 03-3501-1083
- 地方農政局生産部畜産課
 - 【東北】022-221-6198 【関東】048-740-0414
 - 【北陸】076-232-4317 【東海】052-223-4625
 - 【近畿】075-414-9022 【中国四国】086-224-9412
 - 【九州】096-300-6278
- 北海道農政事務所生産支援課 011-350-7656
- 沖縄総合事務局農林水産部生産振興課 098-866-1653
- 都道府県畜産部局 ※各県庁HP等よりご確認ください。

オールイン・オールアウトを可能にするグループ生産システム

【別紙1】

- 種付け、分娩、離乳・育成、肥育、出荷を全てグループに分けて行うことにより、オールイン・オールアウトが可能となり、空舎期間を確保し、全ての豚舎の洗浄・消毒が可能 → **疾病を抑え、生産成績が向上**

<グループ生産システム (スリー・セブン) の場合>

- 母豚を7グループに分け、3週間ごとに種付けを行う。
- 肥育豚のステージ毎の豚舎の移動 (分娩舎→離乳・育成舎→肥育舎) もグループ単位で行う。
- 肥育豚舎は、6棟必要となる。

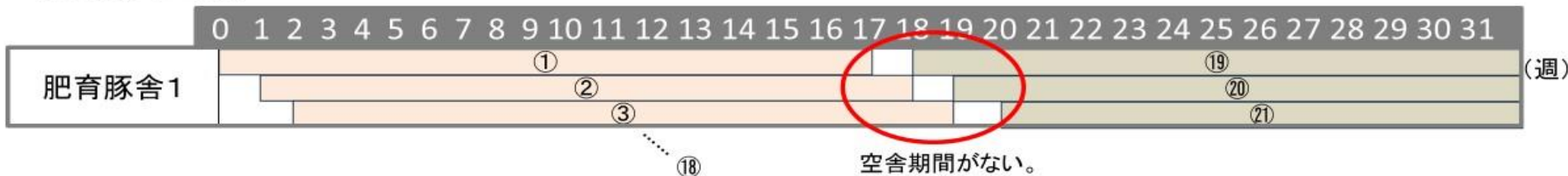
グループの豚を全て出荷し、豚舎全体を空にして、洗浄、消毒をした後、次のグループを入れる。

(肥育豚舎におけるグループ管理)



※肥育豚舎での肥育期間17週

(毎週種付した場合)



畜産クラスター事業

【別紙2】

施設整備事業のポイント

1. 事業内容

中心的な経営体(畜産農家又は飼料生産組織)の収益性向上に必要な施設の整備

【補助率：1/2以内】
 【個別経営体も対象】

2. 支援対象

- (1) 畜産クラスター計画について、都道府県知事の認定を受けること
- (2) 畜産クラスター計画における中心的な経営体の事業であること
- (3) 収益性向上を実現するための取組に必要な施設整備であること
- (4) 飼養規模が**地域の平均規模**となること

解説

「地域の平均規模」の計算方法

【地域の平均規模の設定(計算方法)を柔軟化】

- ・家族経営が取り組む場合、**企業経営を除いた家族経営だけの平均飼養頭数**
- ・採卵鶏の平飼いや放牧酪農など、特色ある飼養方法に取り組む場合、**同様の取組をしている経営の平均飼養頭羽数**など

3. 成果目標

(1)~(3)のいずれかを整備後5年以内に

- (1) 販売額の増加
- (2) 生産コストの削減
- (3) 利益の増加

10%以上 達成
 大規模経営※は**15%以上**
(※正規雇用者が常時6人以上)

【施設整備の例】



豚舎施設外観



タテ型コンポスト



汚水浄化処理施設